

■研究推進委員会 2018年度 活動報告書

提出日：2019年3月22日
 学術委員会承認：2019年4月10日

名 称	生態工学研究推進委員会
委員長	氏名（所属）：倉本宣（明治大学）
幹 事	氏名（所属）：八色宏昌（景域計画（株）） 連絡先（e-mail アドレス）：yairo@keiiki.co.jp
その他 構成員	氏名（所属）： 板垣範彦（いきものランドスケープ）、井上剛（（株）地域環境計画）、 裏戸秀幸（横浜市）、大澤啓志（日本大学）、勝野武彦（日本大学名誉教授）、 亀山章（（公財）日本自然保護協会）、黒田貴綱（日本大学）、近藤哲也（北海道大学）、 園田陽一（（株）地域環境計画）、趙賢一（（株）愛植物設計事務所）、徳江義宏（日本工営（株））、中尾史郎（京都府立大学）、 並木崇（（公財）世界自然保護基金ジャパン）、中村忠昌（（株）生態計画研究所）、 春田章博（春田環境計画事務所）、日置佳之（鳥取大学）、逸見一郎（（一社）自然と文化創造コンソーシアム）、 宮本 渉（（株）地域環境計画）、森本幸裕（（公財）京都市都市緑化協会）、養父志乃夫（和歌山大学）、 渡邊敬太（箱根植木（株））
今年度 活動報告 成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「生きもの技術ノート」および「用語解説」の企画編集 月に1回の研究推進委員会を開催し、学会誌に連載中の「生きもの技術ノート」（年4回）および「用語解説」の企画立案、編集作業を実施し、学会誌に「生きもの技術ノート」を年4回連載した。テーマは「植物標本のスキャンとデータベース化」、「緑化植物のトレーサビリティ認定制度」、「除伐した竹を用いた竹魚礁による魚類資源の保全」である。同時に用語解説として「質的研究法」、「Nature's Contribution to People（自然がもたらすもの）」、「繁殖干渉」を掲載した。 また、ランドスケープ研究 vol. 82（4）では、生きもの技術ノートの連載が100回となったことから、これまでの100回の生きもの技術ノート一覧と、55の用語解説一覧を整理した「生きもの技術ノート連載100回にあたって」を掲載した。 2. シンポジウムの開催 平成30年度日本造園学会全国大会において研究委員会フォーラム「都市林の生態系サービス活用ー都市林業の可能性を探るー」を開催した。 3. 出版活動 単行本「絶滅危惧種の生態工学（2019年3月地人書館より発売）」の編集を行った。 4. 平成31年度日本造園学会全国大会研究委員会フォーラムの企画立案 平成30年度に引き続き、平成31年度日本造園学会全国大会研究委員会フォーラムの開催を目指し、テーマ「市民科学は市民と自然とのかかわりを変えるか」を企画し、ミニフォーラムに応募した。